

保護者は詩人

本プログラムのねらい

- ◎これまでの子育てについて、改めて振り返ることができる。
- 子供への愛情を再認識することができる。

期待される効果

自分の子の欠点などが気になり、つい叱りがちの保護者が、出産時のことを思い出し、**愛情を持って子供に接しようとする**ようになる。

活動の様子

妊娠・出産・育児・命に関する詩を作り替えたり、作ったりします。

自分には、詩なんて書けないと思っていただけけど、意外に書けそう。



紹介してもらった詩を作り替えるくらいだったら、私にもできそう。



久しぶりに自分の出産を思い出したわ。帰ったら、我が子を抱きしめてやりたい。



【準備物等】

- 詩を書くことのできる用紙
- 鉛筆
- 詩集

主な流れ

- 1 進行役が紹介する妊娠・出産・育児・命に関する詩を聞く。
※進行役は、プロジェクターに投影した詩や、掲示物等にかかれた詩を読み上げる。
- 2 読み上げられた詩を作り替えたり、自分なりの詩を作ったりする。
※全体の場で紹介した詩以外の詩に触れられるように、手に取れる場所に詩集等を用意しておく。
- 3 作った詩をグループ内で読み合い、感想を交流する。
※参加者自身の妊娠・出産・育児を振り返ったり、改めて命について語り合ったりする。
※個人情報に関わる内容でもあるため、お互いが無理強いしないように注意する。
- 4 (時間があれば)グループ内で最も共感を集めた詩を全体の場で紹介したり、グループの机の上に置いた詩を鑑賞し合ったりする。

運営上の留意点

妊娠・出産・育児は、どの場面を切っても詩になります。

詩を作ることは難しいと感じる参加者が多い場合は、元の詩を作り替えるように促すとよいでしょう。紹介する詩としては必ず学生時代に学ぶ「谷川俊太郎」、比較的知名度の高い「相田みつを」などの作品を参考にしたいかがでしょうか。